

令和7（2025）年9月4日

柏崎市長 櫻井雅浩

今ほど小早川社長より当方からの確認事項についてご回答をいただきました。検討を誠実に重ねられた、基本的に理解できるものであると考えます。

昨日は柿澤新潟本社代表を通して小早川社長とかなり細かなやり取りを夜に至るまでさせていただきました。御社の考え、本市の考え、率直な考えを伺い、お話しすることができ、有意義なものであったと考えております。

その上で申し上げます。

まず、何よりもこのような事態に至ったのは、御社の7号機特重施設の工事の遅れに起因してであるということです。4年以上も遅れるとおっしゃいます。

昨年、8月22日に社長と交わした文書、確認の時点でも既に見通せていたものと考えざるを得ません。難しい工事であり、その見込みも正確なところを言明することも困難であるのかもしれませんが、4年以上というのはあまりにも年月であります。

当たり前のことですが何事においても互いの「信義」を元に仕事をしています。このことは何よりも確認願いたいところです。

各事項について申し上げます。

確認事項1「再エネの開発方針」に関して

御社、また関連グループ企業による「再エネ」開発がさらに進められ、湯沢、南魚沼、津南などにおける水力発電の増強もよくわかりました。

また、糸魚川の姫川第8水力発電など、具体的な計画も明らかにしていただき、加えて他県内複数地点における水力発電の新設、他

再エネの設置可能性検討など言明していただき評価いたします。

さらにまた、蓄電池を使ったビジネスについても県内複数地点における検討を始めたという点も評価いたします。

いずれも当該自治体市町村長においては期待しているものと考えます。

確認事項2「最適な電源構成の構築」に関して

2019年、御社から発出された文書における「地元のご理解をいただき6・7号機が再稼働した後5年以内に、1～5号機のうち1基以上について、廃炉も想定したステップを踏んでまいります」という表明、また昨年2024年の文書、「6・7号機再稼働後2年以内に、1～5号機に関して、廃炉を含む最適な電源構成について道筋を付けたいと思います」という表明がありました。

今回「6号機の再稼働後2年を待たずに前倒しを図り、1～5号機に関して、廃炉を含む最適な電源構成の道筋を確実に付けてまいります。市長が従来から仰るところの7基の集中立地へのご懸念につきましては、県内でも同様のお声があることを認識しており、こうしたお声を十分に意識してまいります。」という表明は御社の確実なる一部廃炉への意思の表明と考え、それを評価いたします。

「2年を待たず」ということの意味は、まずは6号機の安全、安定的な運転を行い、収益を確保し、福島廃炉、補償等に振り向ける、定期点検を経て、次の期の安定的な運転が始まったころと、理解いたします。

なお、お手元のプリントは御社福島第一原子力発電所所長でいらった吉田昌郎氏の政府事故調査委員会における証言であります。何よりも重いものであると考えております。

確認事項3「超高压海底直流送電ケーブル」に関して

先般、社長もご存じの通り、商社ならびに電気事業者、ゼネコンなどにより予定されていた促進地域3地域における洋上風力事業からの撤退が表明されたところであります。

その中であって、今回の御社の回答、説明はともに日本海側事業に取り組む東京電力パワーグリッド株式会社を含む4社の現状と今

後への検討を率直に表明されたものと理解しております。

「当社グループとして本計画が実現に向かって進むよう、引き続き、柏崎市内における必要な協力を最大限実施してまいります。」という表明を評価いたします。

確認事項4 「6号機の使用済燃料プールにおける保管量の低減」に関して

「今年度下期に計画されているRFSへの使用済燃料の搬出に向けた準備を進めるとともに、6号機に貯蔵されている使用済燃料についても、号機間輸送の実施に向けた準備を6号機再稼働の工程の中で、遅滞なく進めてまいります。」という表明を認めます。

もとより80%を超える貯蔵率は御社にとっても大きな課題であり、市民にとっても安定した原子力発電所の運転ができるのだろうかという不安、また使用済みといえども潜在的なリスクを抱える核燃料を置き続けることへの不安があるものと拝察しております。今後も誠実な履行とその目途について随時公開、ご報告願います。

確認事項5 「地域経済への貢献・柏崎市地域エネルギービジョン」に関して

地元における取引拡大など、誘致以来56年間の信頼は揺らぐものではないと考えますが、一方、今後とも御社は公益企業と呼ばれる「公器」であることも自覚され、公平かつ合理的な事業運営に心するよう期待するものであります。過日、国に対して表明された地域への「協力」に関しても、その形式は前時代的なものではなく、税という公平・公正なシステムによるものであることを強く期待いたします。

「柏崎市地域エネルギービジョン」を踏まえた「原子力と共に、柏崎市における次世代エネルギーの開発は重要であると考えており、現在、案件の具現化に向けて、検討を進めているところで。」という表明は心強いものであると評価いたします。

確認事項6「多様な考え方の傾聴」に関して

「地域の会」のみならず、市民を代表し、誘致決議以来56年間多様な観点から議論してきた「柏崎市議会の存在」について触れていただいたことは特筆すべきことと評価いたします。

また、社長、所長、歴代新潟本社代表はじめ社員の皆様など率先して地域に出て、厳しい意見にも耳を傾けてきたその姿勢は最大限の評価をいたします。今後もその継続を期待いたします。

結びに、事業の進展は冒頭申しあげたように御社、御社社員、関係会社、社員と56年間、立場の違いはあれ共に歩いてきた地元・柏崎市民との間で築き上げてきた「信義」と共にあります。今後も互いに重く認識していきたいと考えておりますし、期待いたします。

最後に申し上げます。さる7月17日付で国ならびに新潟県に対し、「地元の定義」などについて照会文書を発出いたしました。公文書であります。これらの問いに関して、一定の回答が国、新潟県からなされ、御社による事業者使用前検査が行われ、その適法性を確認する原子力規制委員会の判断がなされるというプロセスの中で、柏崎市長として東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機の再稼働について理解することを表明いたします。以上です。

【取扱い厳重注意】

077-1

平成23年8月16日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 加藤 経将

平成23年8月8日及び同月9日 東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

東京電力福島第一原子力発電所長 吉田 昌郎

2 聴取日時

平成23年8月8日午前10時01分から同日午後0時02分まで
(休憩なし。)

平成23年8月8日午後1時05分から同日午後3時00分まで
(休憩なし。)

平成23年8月8日午後3時06分から同日午後5時13分まで
(休憩なし。)

平成23年8月9日午前9時54分から同日午後0時00分まで
(休憩あり。午前11時24分から午前11時35分まで)

平成23年8月9日午後0時58分から同日午後3時53分まで
(休憩あり。午後2時47分から午後2時59分まで)

3 聴取場所

福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字美シ森8番

J-VILLAGE JFAアカデミー福島男子寮2階ミーティングルームB

4 聴取者

参事官補佐 加藤 経将

主 査 千葉 哲

5 ICレコーダーによる録音の有無等

■ あり

□ なし

※ビデオカメラ
柏崎市長 櫻井雅浩
記入

【取扱い嚴重注意】

第2 聴取内容

事故時の状況とその対応について
別紙のとおり

第3 特記事項

特になし。

以上

ここを掘って次をつくるというのは非常に難しいので、ある離隔距離をもっていけないとつukれないという状態だったんです。

このプラントは、昭和46年から54年の8年間で6基つくっているわけですから、要するに1年間に1基ずつつくっているような感じですから、どんどんつくっているんです。ということは何かというと、一緒に掘って、極端にいうと一緒につくっていく。柏崎はワンプラントずつ時間が空いていましたから、そういう意味では地盤が深いものですから、セパレートになります。だから、合理的だという設計になっています。

日本全体で何が標準かというのはよくわからないんですけども、やはりワンユニットで1中層の方が多くいでしょう。ほかの電力さんは一気にたくさんつくらないで、1つつくっていきますから、1つつくって、そこに1つの中層をつくるというのが普通なんでしょう。

○質問者 例えばそういう1つの中層に1つのユニットみたいな感じでも、例えば2つをできるだけ電源が融通できるように近場にやったり、そういう配慮とかはあるんですか。

○回答者 あります。それは先ほど言ったように、共用設備でなるべく2つで1つのものを使えるようにとか、DGもオリジナル設計では共用DGというものもあったと言いましたけれども、あの設計の考え方自体がそうなんです。だから、2つでなるべく共用で使えるものは合理的に使おうという発想です。

○質問者 今回、設計自体は非常に合理的だということと、立地が事故後の対処をするに当たって困難になったみたいな、1つぱっと思いつくのは、1で線量が高くなったら、2の方で共用とか、あるいは特に2号は1と3に挟まれて、1が爆発して作業を一から、3が爆発してまた一からみたいな、そういうよそのところの悪影響までがくるというデメリットはあるんですね。

○回答者 あります。

○質問者 ほかにメリットとかデメリットみたいなものはありますか。

○回答者 メリットからいうと、全体でいうと開発コストになると思います。

だけれども、デメリットからいうと、もっとあって、結局ほかのプラントだとせいぜい1サイト4つぐらいです。昔から集中立地は嫌いなんです。だけれども、会社はずっと集中立地してきたんですけども、福島第二みたいに4つぐらいでこじんまりやっているのが運用上も一番楽なんです。所長の判断範囲も含めてね。6個、7個になってくると、中越地震の柏崎のときもそうですけれども、大混乱になりました。なおかつ全部一発で電源が止まってしまいますね。そうすると、系統上こんなに負荷が落ちるということは、すごい大変なことになる。今度はプラス2Fも落ちましたから、これは会社のリスク分散からいくと、余りよろしくないとは昔から思っているんですけども、私が入社する前からここも柏崎もつくってしまっていますから、そういう中でやっていくしかない。そこが議論になってくると、いろんなことをおっしゃる人がいるんだけど、それこそ40年前に設計した人にとってと言いたくなってしまう。